

にわとり様さま（荷渡大神にわたりだいじん）

上小倉の里かみこくらさとに荷渡大神にわたりだいじんというお社やしろが祀まつられていま
す。このお社やしろは、治山治水ちさんちすいの神様かみさま、収穫しゅうかくした穀物こくもつなど
を船ふねで渡わたした時ときの安全あんぜんを祈願きがんした村人むらびとたちの守り神まもがみで
した。いつのころか定さだかではありませんが、このお社やしろ
が『にわとり様さま』と呼ばよばれるようになり、村人むらびとの信仰しんこう
の対たい象しょうになったいていったいたのです。

さて、その昔むかし、村人むらびとはこのお社やしろで、願ねがい事ごとを念ねんじな
がら鶏にわとりを放ほうり投なげました。鶏にわとりが元げん気きよくはばたくと願ねが
い事ごとはかなねがい、はばたかなねがいと願ねがい事ごとはかなわなねがいと
いわれていまねがした。

ある日ひのこと、一人ひとりの村人むらびとが我わが子この病やまいがなかななか
治なおらないので、

「おら家げの子供こどもがあんべいがよくねえんだ。何なんとか早はやく治なおしてくろや。」
とにわとりたまごの玉子そなを供ねがえ、願ねがいしたのです。すると、数日すうじつ後ごに子こ供どもの病やまいはすなつかり治なお
ってしまなったといなうことなです。



また、ある村人は、

「おら家では、ごごんとこよぐねえことばかり続いて、しやあねえんだ、何んとかしてくろや。」

と行って、持ってきた鶏をお社の前で放り投げました。すると、鶏は元気よく鳴きながらはばたいたのでした。村人はこのお社詣でを何日か続けたのでした。そうするうちに、暮らしが次第によくなってきたということです。

村人は、

「本当に、このにわとり様は、ご利益があんだぜ。わしや今でも信心してんだよ。」
と、そのご利益に感謝をしていたのです。

ある年のことです。このお社を守り続けている氏子の代表者が訳あってこのお社を他の場所に移しました。しかし、どうしたとかそれ以来、家族の病気が絶えなかったという事です。

「にわとり様を他の場所に移したことが、よぐなかつたんだんべな。」
その氏子は悔やんでいました。

その後、氏子は、このにわとり様のまわりをきれいに掃き清め、新しくお社を建て替えました。以来、病も次第に治り、暮らしもよくなったといえます。

ところで、このにわとり様を守り続けている数人の氏子の家では、どういう訳か昭和



にわとり様お社

四十年ころまでにおとりの肉は食べませんでした。そればかりでなく、玉子やキュウリを食べたり、鶏を飼ったりすることもしななかつたそうです。

村人が鶏を飼う場合でも、鶏は時を知らせる神の使いとして、庭で野放しにし、その肉や玉子を食べたりしなかつたといわれています。

また、上小倉には権現様といわれるお社がありました。このお社は今から約千年前に

八十三歳で亡くなった『にわとり左今守義定』とい

う武士の命日にちなんで、祀られたともいわれます。

現在でも年に一度の権現様の祭りが、旧暦の十月半

ばに行われています。

前夜祭と当日には道行く人に赤飯が配られ、氏子

の守り神として崇めているのです。ともあれ、にわ

とり様とこの権現様は、どこかでつながっているよ

うに思えるのですが……

にわとり様は、現在上小倉の東組西高速道路の

道端に鎮座し、行き交う人々の暮らしを、じつと見

つめているのです。